2020 年 12 月号　　題字　一萬田 尚登 第 5 代日印協会会長

月刊インド

Monthly Journal of the Japan-India Association

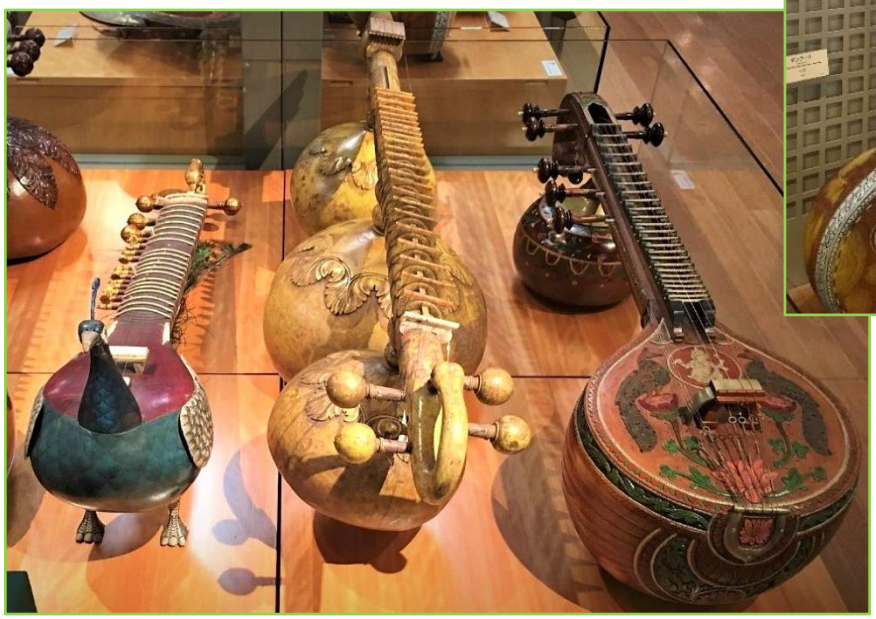
公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治・経済・文化・人的交流に貢献して 117 年）

インドの楽器

上：左よりタンブーラ、バーンスリー（横笛）、タブラ（打楽器）など
下：ヴィーナ

（浜松市楽器博物館にて撮影）

楽器を使用した演奏動画についてはイベント記事及び編集後記をご覧ください。



目次

1. インド人と新型コロナ　～逆境の中の逞しさ、優しさ、ユーモア～ …… P. 3
2. インドニュース（2020 年 11 月） …… P. 7
3. イベント紹介 …… P. 10
4. 新刊書紹介 …… P. 13
5. 掲示板 …… P. 14

目次とページを合わせるために空白ページをいれております

1. インド人と新型コロナ
～逆境の中の逞しさ、優しさ、ユーモア～
Indians and COVID-19
- Resilience, Kindness and Humor in the Midst of Adversity -

公益財団法人日印協会理事
山田真美

※本文中に記載する日付は特に断りのない限り全て 2020 年の出来事です。

はじめに、このたびの新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）による被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。

1 月 30 日にインド初の感染者（留学先の武漢大学からケララ州内の実家に帰省中だった当時 20 歳の女子医学生）が確認されてから今日までの 1 年弱の間に、インドは実に多くの試練を乗り越えてきました。特に 13 億人を巻き込んだ「世界最大のロックダウン」は、徒歩で郷里に帰ろうと試みた多数の肉体労働者が道半ばにして斃れるなど、「パーティション（印パ分離）以来の悲劇」と表現する人がいるほどの壮絶な混沌を生んだようです。

しかしそのような状況下でも、一年を通じ、インドからは心が温かくなる前向きなニュースがしばしば聞こえてきたことも事実です。本稿では、新型コロナという世界的な逆境が続く中で筆者が感じたインドの逞しく、優しく、時にユーモラスな出来事を二つほどご紹介した後、筆者が客員准教授を務めるインド工科大学の学生たちの近況についてご報告申し上げたいと思います。

「コロナちゃん」「ロックダウンくん」――新生児に新型コロナに因んだ命名

新型コロナに関するインド関連のニュースで、筆者が最初に驚いた出来事がこれです。

インドでは 3 月 24 日の午後 8 時にロックダウンが発表され、25 日午前 0 時には 13 億人の国民すべてを対象としたロックダウンが始まりました[注 1]。身辺を整えるための準備時間は、わずか 4 時間。日本人には信じられないスピード感ですが、インドではこのように突如として政策が決定し、間髪を入れずにそれが実行に移されるということがしばしば起こります。文句を言っても仕方がありません。すべては「ノープロブレム」と笑って受け入れるしかないのです。

ロックダウンの開始を受けてただちに州境が封鎖され、列車やバスの運行が停止。店舗から寺院、工場に至るまでありとあらゆる施設が一時閉鎖を余儀なくされたインドにおいて、真っ先に大打撃を受けたのは出稼ぎ労働者たちでした。彼らの多くが職を失い、住む場所も失って、徒歩で郷里へ帰ろうとする人が続出。しかしその距離は数百キロ、時には千キロにも及び、極度の疲労と飢え、あるいは事故によって命を落とすケースが多発し、現場は修羅場であったといいます。

そのような状況下、ロックダウン 3 日目の 3 月 27 日にインド中部のライプールで男女の双子が誕生しました。両親が双子のために選んだ名前は、驚くなかれ「コヴィッドくん」と「コロナちゃん」[注 2]。この出来事はメディアを通じて大きく報道されましたから、ご存じの方も多いでしょう。赤ちゃんの両親は「ロックダウンのさなかに克服した苦難の数々を忘れないために」との願いを込めてこの名を選んだようですが、インドではわが子に神さまの名前を命名することが一般的で、ウイルスに因んだ命名など聞いたことがありません。これに対してインド人はどのように反応するのだろう。例えば日本の「悪魔ちゃん」事件の時のように行政が介入する可能性はあるのか。興味深く見守っていましたが、どうやら行政の介入はなく、それどころかその後も新型コロナに因んだユニークな名前が続々と登場して世間を騒がせました。

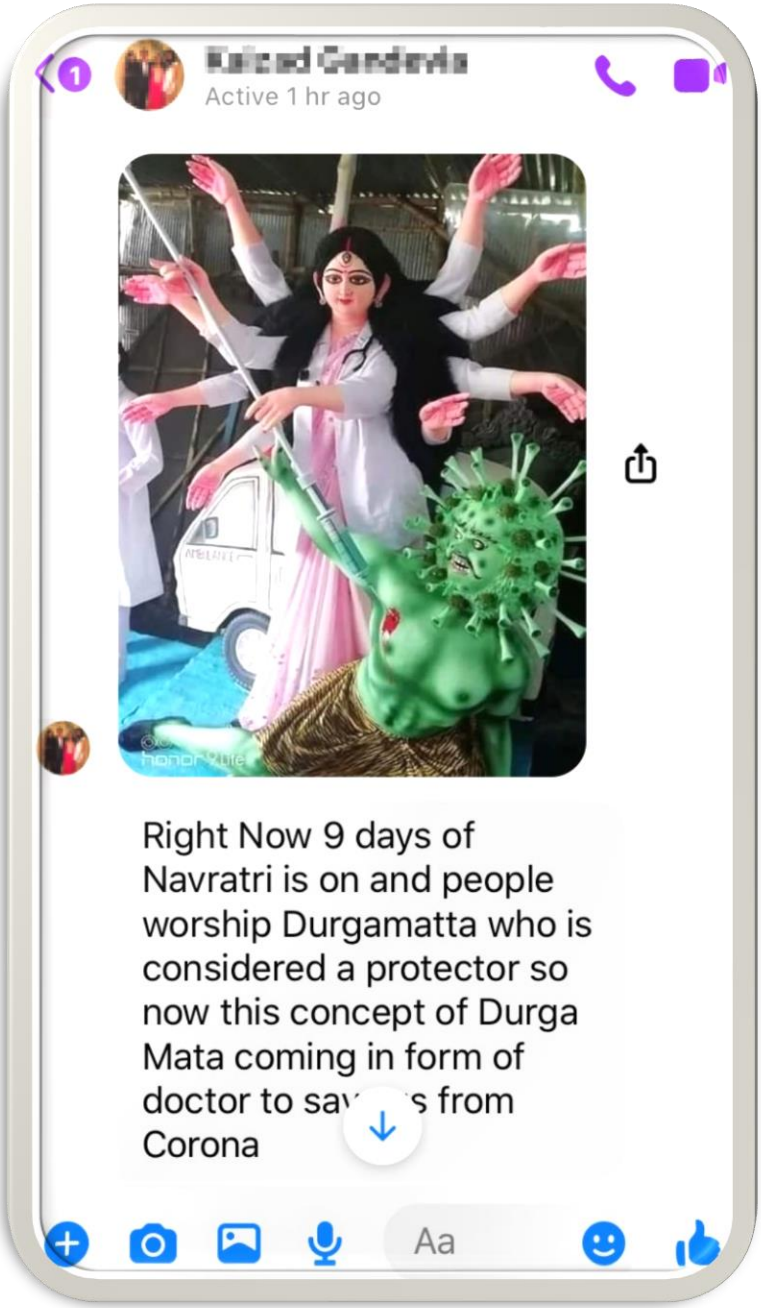
例えば、ロックダウンで路頭に迷った労働者を郷里に送り届けるために 5 月 1 日から新たに運行を開始したムンバイ発の特別列車「シュラーミック・スペシャル号」（シュラーミックは労働者の意味）の車内では、若い母親が産気づき、元気に生まれた男児は「ロックダウンくん」と命名されたそうです。このニュースに触発されたのか、あるいは偶然か、因果関係はわかりませんが、このあとまったく別の場所で生まれた新生児も「ロックダウンくん」と命名されたそうですから、今年、インドでは一定数の「ロックダウンくん」が誕生したものと思われます。

さらに、ウッタル・プラデーシュ州サハランプールで生まれた男児は「サニタイザー（消毒液）くん」と名づけられ、これについては父親が「今後どこへ行っても『コロナをやっつけたのはサニタイザーだ』と言ってもらえるでしょう」と命名の理由を説明していました[注 3]。

わが子に「ソーヌー・スード」と命名した親御さんもいたようです。ソーヌー・スードとは、主に悪役で知られるインド人俳優さんの名前。人道主義者としても知られる彼は、ロックダウンで路頭に迷った労働者らを無事に郷里へ帰すために、バス、列車、飛行機を自費でチャーターして数千人を救い、さらにはキルギス共和国に取り残された 1,500 人超のインド人学生を帰国させるべくチャーター機を飛ばすなど、まさに八面六臂の大活躍をなさいました[注 4]。スクリーン上の悪役がリアル世界ではヒーローになったとあって、彼の人気は急上昇。彼にあやかろうとソーヌー・スードと命名された赤ちゃんも既に確認されているそうです。

白衣姿のドゥルガー女神と警官姿のガネーシャ神

さて、ソーシャル・ディスタンシングが徹底し、リアルに人と会う機会が激減した今年でしたが、その分インターネットを通じての交信は目に見えて増えました。WhatsApp（ワッツアップ）などを介してのインド人とのやり取りも増え、例年より多くのインド情報が手もとに集まってきたのは予期せぬ収穫でした。



そんな中、10 月も暮れる頃インドの女友達から一通のメッセージが届きました。「今、ナヴァラートリ祭りの真っ最中。今年のドゥルガー女神は、私達をコロナウイルスから救うためにお医者さまの姿で現れたわ！」という摩訶不思議な文章に添えられた写真には、なにやら見慣れない姿の人形が何体か写っています。

――いつもなら 10 本の手に 10 種類の武器を携えているべきところ、それらを注射器や聴診器に持ち替えて白衣を着たドゥルガー女神。

――本来はドゥルガー女神によって胸を一突きされ、血を流して息絶えているはずのマヒシャスラ大魔王は、なぜかコロナウイルスの姿で注射を打たれています。

←コロナウイルス姿のマヒシャスラ大魔王を注射器で成敗する医師姿のドゥルガー女神

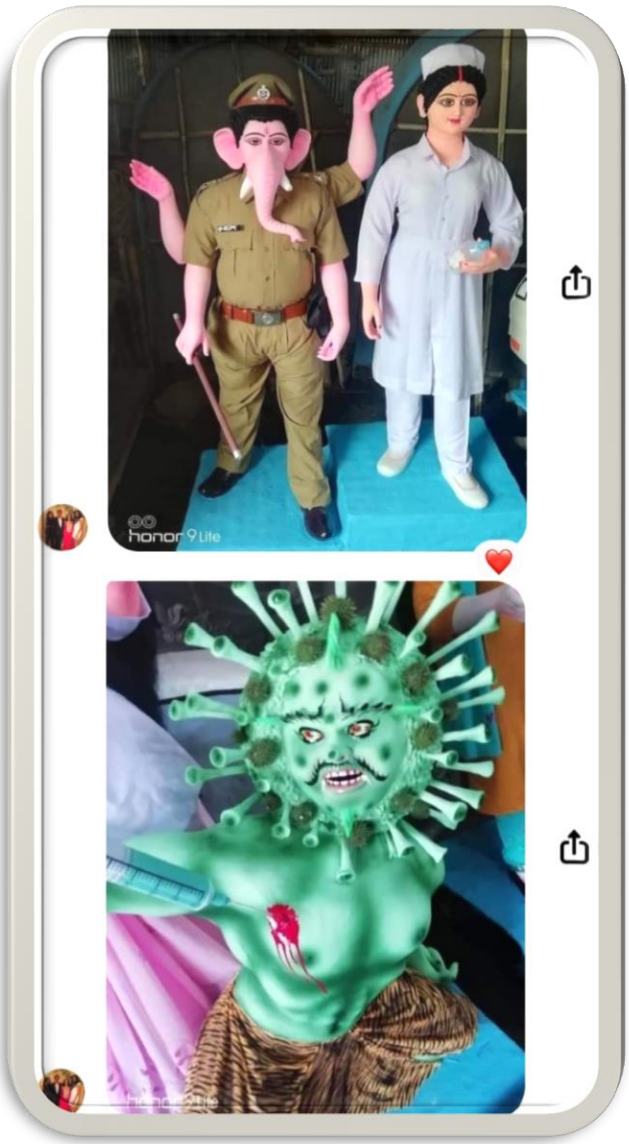
――さらにその横には、警官の制服で市民にソーシャル・ディスタンシングを呼びかけるガネーシャ神と、楽器（ヴィーナ）の代わりに薬瓶を手にしたナース姿のサラスワティ女神（弁才天）。

（写真は次ページ）

実はこれらは全て、インド神話の有名な一場面のパロディなのです。本来の神話では、ドゥルガーはマヒシャスラの息の根を止めるために神々によって創造された究極の軍神。一方のマヒシャスラはインド最強の敵キャラ（ラスボス）。本来ならここは、虎の背に跨り 10 種類の武器を手にしたドゥルガーが死闘の末にマヒシャスラを倒すという真剣勝負の場面なのです。

ちなみにナヴァラートリはインド各地で毎年秋（9 月～10 月頃）に行なわれるお祭りで、別名はドゥルガー・プージャ。ドゥルガー女神がマヒシャスラを打ち負かした（つまり善が悪に勝った）ことを祝います。今年は新型コロナの影響でお祭りそのものが開催できないのではと心配していましたが、それは杞憂だったようです。それどころか、インドの人たちは新型コロナによる陰鬱な空気を吹き飛ばそうとするかのように、パワフルでユーモラスな神像を作ってお祭りの準備を着々と進めていたのですね。

白衣を着たドゥルガーと、ウイルスに扮したちょっと情けないマヒシャスラは、よほどインド人の心の琴線に触れたのでしょう。複数のメディアに報じられ、SNS を介して瞬く間にインド中（あるいは世界中）に拡散。筆者のところにも複数の友人から当該記事が送られてきた次第です。インドではロックダウン開始と同時に全ての寺院が閉鎖され、人々は暫くの間、神像を拝むこともできませんでした。白衣を着たドゥルガー女神は、もしかすると「みずからの身を挺して人々の暮らしを守ってくれる医療従事者こそが、人間の姿をした本当の神さまなのですよ」というメッセージを伝えようとしているのかも知れませんね。それにしても、普通は神さまの像でここまで自由に遊べるものではありません。改めてインド人の心の広さに感服した出来事でした。



上：警官姿のガネーシャ神と
　　ナース姿のサラスワティ女神（弁才天）
下：コロナウイルス姿のマヒシャスラ大魔王

インド工科大学ハイデラバード校の学生たちの現状

最後にインド工科大学ハイデラバード校（以下、IIT-H）の現状をお知らせします。

筆者は 2015 年から同校で日本の歴史・文化に関する集中講義を行なってまいりました。しかし諸般の事情を鑑みて 2020 年度の授業はやむなく中止いたしました。この一年、多くの日本の皆さまから「IIT-H の学生さんたちは今どうしていますか」とご質問をいただきました。そこでここでは、学生自身の口から語られた大学の現況をかいつまんでご紹介したいと思います。

IIT-H では 3 月 9 日から 13 日までが中間休みでした。大学は全寮制ですが、休み中は実家へ帰省する学生が多かったようです。休みの最終日、大学から学生宛にメールが届き、休みの延長が通達されました。次いで 3 月 18 日には寮、食堂、研究室などキャンパス内の全施設が完全閉鎖されることがメールで知らされました。休み中も帰省せず寮に残っていた学生たちは、キャンパスからの退去を命じられました。その一人である 3 年生のデーヴァスーリャさんによれば、退去命令は突然で、すぐに飛行機を予約し翌日には寮を出なければならなかったとのこと。キャンパスが無期限閉鎖となることまで想定し、部屋にあった私品はほとんど持って出たそうです。

こうして全学生がキャンパスから姿を消し、4 月 1 日からほぼ全ての授業が一斉にオンラインに切り替えられました。12 月 1 日現在もなお、ほとんどの授業がオンラインのままです。この間、学生たちは自宅待機を余儀なくされており、大学に戻ることが許されたのは卒業間際の 4 年生や大学院終了間際の学生、それに学部代表者など一部の学生だけだそうです。

3 月から 8 か月以上実家に籠もっている 3 年生のルパさんに「今一番困っていることは」と尋ねたところ、「授業はオンライン、レポートを書くのもパソコン、息抜きもパソコン。ほとんどの学生が大部分の時間をノートパソコンの上に身をかがめて費やしている状況で、著しく不健康な状態が続いています。景気が悪化しインターンシップや就職先を提供してくれる企業が減ったこともストレス増大に拍車をかけています。オンライン授業になったことで課題や試験の頻度が増え、学生の負担は増しています」と切実な口調で答えたあと、一呼吸置いて、「でも、家族と長い時間を過ごせて本当に幸せです。料理も習えたし」と爽やかに微笑んでくれました。

IIT-H には日本への留学希望者が多く、前述のデーヴァスーリャさんもインターンとして日本の大学に来ることを夢見ながら逆境の中で頑張っている一人です。これからもできる限り彼らの心に寄り添い、微力ではありますが若い人達の日印交流のお手伝いを続けてゆく所存です。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

参考文献（インターネット閲覧日は全て 2020 年 12 月 1 日）
[注 1] https://www.nytimes.com/2020/03/24/world/asia/india-coronavirus-lockdown.html
[注 2]
https://timesofindia.indiatimes.com/city/raipur/born-during-lockdown-raipur-twins-named-corona-and-covid/articleshow/74960551.cms
[注 3] https://indianexpress.com/article/india/lockdown-corona-covid-sanitiser-baby-name-6428445/
[注 4] https://en.wikipedia.org/wiki/Sonu_Sood#Social_work_during_the_COVID-19_pandemic

山田真美（やまだ・まみ）：

作家で博士（人文科学）。2001 年から日印芸術研究所言語センター長（インド政府認可法人）、2010 年から日印協会理事、2015 年からはインド工科大学ハイデラバード校教養学部客員准教授を務めている。

ナマステ・インディアの日印協会主催　講演会では、その話の面白さで大人気となっている。

公式ウェブサイト www.yamadamami.com

2. インドニュース(2020 年 11 月)
News from India

1　内政

【農業関連法】

11 月 5 日

モンスーン国会で可決した農業関連法への抗議として農業事業者が約 1 か月に亘り鉄道線路を占拠したため、パンジャブ（ＰＢ）州への貨物輸送が滞り、農産業が打撃を受けていることを受け、ＰＢ州選出の下院議員 2 名（コングレス所属）は、ゴヤル鉄道大臣に面会し、同事案の解決を強く要請した。

11 月 13 日

トーマル農業・農民福祉大臣、ゴヤル鉄道大臣、パルカシュ商工副大臣は、複数の農業従事者労働組合（ＰＢ州拠点）と協議を実施した。終了後、トーマル大臣はメディアに対し、今後も協議を続けていくと述べた。

【全国ストライキ】

11 月 26 日

主要労働組合 10 機関の呼びかけにより、中央政府の農業関連法や労働法に抗議をするため全国規模でのストライキが実施された。

【州議会補欠選挙】

11 月 10 日

11 月 3 日及び 7 日に 11 州において実施された計 59 議席の州議会補欠選挙の開票が実施された。いずれの州も現州政権継続となる。

【冬期国会】

11 月 22 日

現地メディアは、ビルラ下院議長が、下院事務局は冬期国会の準備ができており、日程は中央政府が決定すると述べた旨報じた。今後、議会に関する内閣委員会が日程を決定し、野党等との協議に入る予定。

【コングレス】

11 月 21 日

現地メディアは、経済問題、外交、国家安全保障に関するコングレス党の立場を策定するため、ソニア・ガンディー・コングレス総裁が 3 つの委員会を設立した旨報じた。同委員会は、マンモハン・シン元首相やアザド上院野党代表等の年長者から構成されており、コングレスの改変が党内から求められているにも関わらず、ガンディー一族のベテラン・経験豊富な指導者への継続的な依存を示しているとされる。

【ジャンム・カシミール（ＪＫ）準州】

11 月 7 日

ＪＫで初の選挙となる地区開発協議会（District Development Councils、ＤＤＣ）の協議員選挙を前に、ＪＫ州としての特別地位復活を目的に複数政党が加盟する「グプカル宣言のための人民同盟」（ＰＡＧＤ）のローン・スポークスパーソン（人民協議会（ＪＫＰＣ）党首）は、ＰＡＧＤは同選挙に団結して出馬すると述べた。

11 月 9 日

ＪＫＰＣは、最高裁での審理が保留されている印憲法 370 条無効化に反対する訴えにつき早急に審理を実施するよう、最高裁に要求した。

11 月 16 日
プラサード法務・司法大臣は、メディアに対し、ＰＡＧＤに加盟するファルーク・アブドゥッラーＪＫ民族協議会（ＪＫＮＣ）党首が印憲法 370 条の復活のため中国の助けを厭わないとしている、メフブーバ・ムフティ人民民主党（ＪＫＰＤＰ）党首はインド国旗を掲げないなどと述べているとして批判した。また、同同盟にコングレスが加盟していることにつき、同大臣は、コングレスは同ＪＫＮＣ党首及びＪＫＰＤＰ党首らの言動を支持しているのか明確に示すべきであると述べた。

11 月 19 日
現地メディアは、ＤＤＣ選挙が迫る中、中央政府がＪＫ内に、2 万 5 千名の治安部隊要員を追加的に派遣することを指示した旨報じた。ＪＫでは、候補者が立候補の届け出を行うと、命の危険があるとしてＪＫ警察によりクラスター施設に移動させられている。ＪＫ当局の高官は、保護を求める者のみが安全な場所に収容されていたと述べたが、「グプカル宣言のための人民同盟」（ＰＡＧＤ）は、ＰＡＧＤ候補者を閉じ込めることでＢＪＰを支援しているとＪＫ警察を批判した。

11 月 28 日
現地メディアは、ＤＤＣ選挙の第一フェーズの投票率が 51.76%であった旨報じた。

2　経済

【インド経済（新型コロナウィルスに伴う経済対策第 4 弾の発表）】
11 月 12 日、シタラマン財務大臣は雇用促進・住宅供給促進・経営難企業支援等から成る新しい経済対策を発表したところ、概要は以下の通り。

ポイント
1　今回の経済対策の事業規模は、第 4 弾のみで 2.65 兆ルピー（約 3 兆 700 億円、対ＧＤＰ比 1.4%）。政府発表によると、3 月の経済対策第 1 弾（1.70 兆ルピー）、5 月の経済対策第 2 弾（11.03 兆ルピー）、7 月に行われた対策第 1 弾の延長措置（0.83 兆ルピー）、10 月の経済対策第 3 弾（0.73 兆ルピー）、インド準備銀行（ＲＢＩ、中央銀行）による流動性供給（10 月末時点までで計 12.71 兆ルピー）といった既に実施されている分も含めて、合計で 29.88 兆ルピー（約 41 兆 8000 億円、対ＧＤＰ比 16.0%）程度となる。
2　今回の対策の狙いは、立ち直りの遅れている分野を中心に需要と供給の両面から経済を支え、新型コロナウィルスによる長引く影響を払拭すること。
3　エコノミストの中には資金調達を疑問視する意見も見られる。シタラマン財務大臣は今回の追加措置について、既に発表している 4 兆ドルの追加借入で十分賄うことができるとしているが、今年度の歳出増と税収減を考慮すると、更なる借入が必要との見方もあり、年度後半にかけて歳出が収縮的（contractionary）となるリスクが指摘されている。

3　外交

（印・パキスタン関係）
11 月 1 日
インド外務省は、パキスタン政府によるギルギット・バロチスタン(ＧＢ)の州格上げに抗議した。

11 月 14 日
インド外務省は、13 日にジャンム・カシミール準州のパキスタンとの管理ライン付近で発生し、複数の市民が犠牲となったパキスタン軍による停戦違反に関するプレスリリースを発表した。

11 月 21 日
インド外務省は、19 日にジャンム・カシミール準州のナグロタ（Nagrota）において発生したジャイシェ・モハンマド（JeM）によるテロ未遂事件について、プレスリリースを発表した。

（印・フィリピン関係）
11 月 6 日
インド外務省は、第 4 回二国間協力に関する印フィリピン合同委員会がヴァーチャル形式で開催された旨プレスリリースを発表した。同委員会には、ジャイシャンカル外相及びテオドロ・ロクシン・フィリピン外相が出席した。

（印・イタリア関係）
11 月 6 日
インド外務省は、印伊テレビ首脳会談が開催された旨プレスリリースを発表した。

（印米関係）
11 月 17 日
インド外務省は、モディ首相がバイデン次期米国大統領と電話会談を実施した旨プレスリリースを発表した。

（印・ＵＡＥ関係）
11 月 26 日
インド外務省は、ジャイシャンカル外相がＵＡＥを訪問した旨プレスリリースを発表した。

（印英関係）
11 月 27 日
インド外務省は、モディ首相がジョンソン首相と電話会談を実施した旨発表した。

（湾岸諸国）
11 月 3 日
インド外務省は、ジャイシャンカル外相が印・湾岸協力会議の年次政務対話に出席した旨発表した。

（上海協力機構 ＳＣＯ）
11 月 10 日
モディ首相は、SCO 元首級テレビ会合に出席した。

（ＡＳＥＡＮ）
11 月 12 日
印ＡＳＥＡＮ首脳会合が開催された。

（東アジア首脳会議 ＥＡＳ）
11 月 14 日
インド外務省は、ＥＡＳにジャイシャンカル外相が出席した旨プレスリリースを発表した。

（ブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカ首脳会議 ＢＲＩＣＳ）
11 月 17 日
第 12 回ＢＲＩＣＳ首脳テレビ会合が開催され、モディ首相が出席した。

（G20）
11 月 21－22 日
インド外務省は、21 日から 22 日にかけて開催された第 15 回G20 首脳テレビ会合にモディ首相が出席した旨プレスリリースを発表した。

4　日印関係

11 月 18 日

日印トラック 1.5 対話「第 3 回日印インド太平洋フォーラム」が開催された。

今月の注目点：第 3 回日印インド太平洋フォーラムにおける茂木外務大臣ビデオ・メッセージの発出

11 月 18 日、日印トラック 1.5 対話「第 3 回日印インド太平洋フォーラム」がオンライン形式で開催されました。

1. 今回のフォーラムでは、「世界秩序とインド太平洋」、「日印二国間関係」、「経済協力、投資、貿易」の各テーマに沿った議論が日印両国の政府関係者及び有識者により活発に行われました。

2. 冒頭、開会式では、茂木敏充外務大臣がビデオ・メッセージを発出し、続いて、ジャイシャンカル印外相が挨拶を行いました。

3. 茂木大臣は、メッセージの中で、日印両国の英知を集める場としての本フォーラムの開催に祝意を表し、日本とインドが、ポスト・コロナの世界も見据えて、戦略的な関係を一層深めていくことの重要性について述べました。加えて、ポスト・コロナのルール作り、秩序作りで、日本とインドが共にリーダーシップを発揮していきたい旨述べました。

3.　イベント紹介
Japan-India Events

◇　最近のイベント　◇

◆　岩立フォークテキスタイルミュージアム

「インド 沙漠の民と美　（後期）ラージャスターン州 伝統の木版更紗と絞り」に行ってきました！

11 月 27 日（金）、「岩立フォークテキスタイルミュージアム」（以下、岩立ミュージアム）に足を運んだ。場所は自由が丘駅から徒歩 3 分ほど、ビルの 3 階にある小さな染色織物専門の博物館だ。

午後 2 時の予約時間に展示室に靴を脱いであがると、先客が 3 人いた。まるでおしゃれなご自宅にお邪魔してコレクションを見せて頂いている気分だった。岩立ミュージアムは、館長の岩立広子氏がインタビュー記事で話されていた「私もいつか、自分が持っているものを、自由に見てもらえる場所を持ちたいな」という幼き頃の夢の実現そのものだ。今回の展示は岩立館長のインドの収集品 4,000 点のほんの一部。収集品はインド以外も含めると 8,000 点の染織品を所蔵しているとのことだ。

岩立フォークテキスタイルミュージアム
館内展示の様子

展示されていた木版更紗は、ラージャスターン州ジャイプル近郊の職人が木版を用いて捺印し、染められ、作成に大変手間と時間がかかる方法で作られている。貴重なものだけれど、私はそのまま自分が身に着けて帰りたいほどスカートの色柄が気に入ってしまった。

また、布端から対角線に巻き、糸で括って染めることを繰り返す「ラハリア」や、日本の鹿の子絞りと似た「バンダニ」と呼ばれるインド特有の絞り技法が施されたターバンや衣服も展示されていた。

コロナ渦のため、普段ここで行われる講演会やギャラリートークは現在中止されている。再開されたら参加して、実際に実物を見ながらインドの染織方法や、作成された場所の話を詳しく聞きたいものだ。

（日印協会　山本真里枝）

「インド 沙漠の民と美　（後期）ラージャスターン州 伝統の木版更紗と絞り」

会期：2020 年 11 月 26 日（木）― 2021 年 3 月 13 日（土）（年末は 12/26 まで・年始は 1/7 から）

場所：一般財団法人 岩立フォーク テキスタイル ミュージアム

〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 1-25-13 岩立ビル 3F　　Tel: 03-3724-5407

開館日　会期中の木・金・土・日曜日（現在日曜日は臨時休館中）

開館時間 10:00 - 17:00 ＊入館は 16：30 まで

入館料 500 円 [小中学生 無料、高大生 300 円、障がい者とその同伴者 300 円]

コロナ対策のため予約優先制、予約はこちらから http://www.iwatate-hiroko.com/japanese/reopening.html

◆　12 月 13 日　丸橋広美 モヒニアッタムのオンライン公演に参加しました

日印協会の会員である、南インド　ケーララ州の古典舞踊モヒニアッタムの第一人者、丸橋広実氏のオンライン・ダンス公演に参加しました。

この公演はインド、アンドラプラデーシュ州の都市グントゥールの印日協会の招聘公演です。この協会は 1998 年に創立 25 年を記念して丸橋氏に初の文化賞を贈呈しました。その時の故会長のご子息の Dr.Suryanarayanan さんが父親の遺志を継ぎ、本公演を企画しました。日本、インド、アメリカ、イギリスのどこからも ZOOM で入れるようにと日本時間 11 時半から開催されました。

撮影会場は江戸川印度文化センターで、江戸川区議会議員のヨギ氏（Yogendra Puranik）が日本の司会進行を担当されました。丸橋氏に踊りに集中できるように、ヨギ氏が日本語トークを英語でインド側に伝えていました。演目は「ガネーシャ神に捧げる踊り」、「プータナ・モクシャ」「シバ神賛歌」「クリシュナ神賛歌」「バガワットギータ」「ティラーナ」の六曲。一人のダンサーが数々の神話のキャラクターとなり、ダンスで物語を演じるモヒニアッタムの世界に魅了されました。解説がヒントになったものの、私自身にもっとインド神話の知識があればもっと陶酔できたのだと思います。「今まさに、踊っている！」というライブ配信は、録画ではない迫力がありました。

この公演の情報を知ったのが遅く、会員の皆様に広報できなかったのは残念でした。次回にご期待ください。

（文責：山本真里枝、写真提供：佐野由典氏）

◇　今後のイベント　◇

◆　12 月 25 日「第 4 回 こんにちは JAPAN　2020」オンライン配信イベントのご紹介

毎年インドのデリーで開催されている、日本文化を紹介するイベント、「こんにちは JAPAN」。今年 2020 年はコロナ禍のため、現地開催の代わりに動画配信で実施されます。

デリー在住の方に限らず、インド、日本、世界のどこからでも参加して頂けます。開催は、クリスマスの午後です。

ぜひお楽しみください。

KONNICHIWA JAPAN 2019 の様子

開催日：12 月 25 日（金）
時間：日本時間 午後 6 時半　（インド時間 午後 3 時）
参加方法：YouTube ライブ配信　（事前登録なし）
アクセス URL：近日決定
決定次第、DIC（ディスカバーインディアクラブ）の Facebook 等でお知らせします。または「Konnichiwa Japan India」で検索してください。
主催：KJC（Konnichiwa Japan Club）
共催：DIC（Discover India Club）、IJFF（India Japan Friendship Forum）
後援：日印協会、山陰インド協会、在日インド商工協会、World Heritage Academy
協賛：Global Trade Resources、Asahi Travel Service
イベント紹介動画（5 分 43 秒）：https://youtu.be/fhVEMAHaX2U

◆　インド大使館「平和と調和のためのデジタル・コンサート・シリーズ」今後の予定

9 月号でもお知らせしましたが、インド大使館、公式 YouTube チャンネル（https://bit.ly/2P6fhzm）では、日本とインドの著名なアーティスト方々によるパフォーマンス動画を毎週新規公開しています。8 月から始まったこの企画も新規配信は、あと 2 回だけ。

2020 年 12 月 25 日　クリスマス特別編
第 22 回：ティム・ホフマン（尺八＆箏)/逆瀬川健治

2021 年 1 月 1 日　お正月特別編
第 23 回：武藤景介（シタール）／森山繁（タブラ）

第 20 回、サントゥール奏者 宮下節雄氏と
タブラ奏者 指原一登氏による演奏
（インド大使館 FB より）

過去のこのコンサート動画は、下記の日印協会ホームページでご覧になることができます。
https://www.japan-india.com/release/533abcf32d36dab47b0e65bca53a6ae174461405

4. 新刊書紹介
Books Review

§『13 億人のトイレ 下から見た経済大国インド』

著者：佐藤 大介　　出版社：ＫＡＤＯＫＡＷＡ／角川新書

価格：本体 900 円＋税　　ISBN 978-4-04-082361-4

私は知らなかった。インドで自宅にトイレのない人の数が、人口の半分に近い、約５億６千万人だということ。また、世界での「トイレなし人口」の6割がインドに集中していることもこの本で知った。インドの国内総生産(GDP)は世界５位なのに、なぜトイレが無いのか。本を読むと理由が明らかになっていく。

この本はインドのトイレ事情だけを説明した本ではない。共同通信のニューデリー特派員だった著者が、現地から日本の読者に「インドをどう伝えるか」の切り口として選んだのが「トイレ」である。トイレをとおして、「モディ政権の看板政策（トイレ建設）実情」、「貧富の差やカースト」、「経済成長という言葉の陰のさまざまな問題」、「トイレをビジネスとする企業の取り組み」など、矛盾や問題を抱え、それが放置されたままの側面もあれば、変化を遂げようとしているインドをわかりやすく伝えている。

また、著者はコロナ拡大でロックダウンが続く中、今年５月までニューデリーに滞在していたので、最終章ではコロナ渦での「清掃労働者の現状」にも触れている。記者魂というか、綿密な取材をした上での文章だ。インドをいつもと違う方向から知ることができる本だ。　　（日印協会　山本真里枝）

§『インドの数学　―ゼロの発明』

著者：林 隆夫　　出版社：筑摩書房／ちくま学芸文庫

価格：本体 1,300 円+税　　ISBN 978-4-480-51004-4

この本でとりあげられているのは、紀元前二千年紀の半ば以降にインド亜大陸にやってきたアーリア人を中心とするサンスクリット文化圏の数学の歴史である。ヴェーダ祭式の祭場設営に由来する最古層の幾何学に始まり、ジャイナ教徒の数学と哲学・世界観との関係、数学と天文学、７世紀以降のアルゴリズム数学と代数の確立など、各時代に開花した数学を概観し、その発展の過程を探る。終章では、三角関数、ホロスコープ占星術、筆算法、和算などのトピックを通して、インドと他文化圏との数学の伝播を考える。

インド数学史の豊かな海により深く潜航したいと思われる読者のために、本書の各章に関連する参考文献と、それとは別に、1993 年以降に出版された、書誌、通史・概説、論文集、雑誌の「文献リスト」がつけられている。

目次

第１章　数表記法とゼロの発明　　第２章　シュルバスートラ（祭壇の数学）
第３章　社会と数学　　第４章　ジャイナ教徒の数学
第５章　アールヤバタの数学　　第６章　インド数学の基本的枠組みの成立
第７章　その後の発展　　第８章　文化交流と数学

5. 掲示板
Notice

〈事務局 年末年始の休みについて〉

日印協会事務局は2020年12月28日（月）より2021年 1月5日（火）までを、年末年始休業とさせて頂きます。

〈次回の『月刊インド』の発送日〉 次回1月号の発送は、2021年1月22日(金)を予定しております。

会員は発刊日にお手伝いをしていただければ、月刊インドにチラシを無料で封入することが出来ます。チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。また、インド関連イベントの後援も行っております。

〈編集後記〉 今年は編集子自身も楽しみにしていた「ナマステ・インディア」もコロナ禍で中止。主催側も検討を重ねた結果、安全第一を考えての決定と聞いております。

今号はそのナマステ・インディアでの日印協会主催講演会で、インドについての話で笑いの渦を起こしている山田真美先生の記事です。

また表紙には「インドの楽器」を掲載いたしました。実際の演奏方法、音色や音楽を楽しみたい方は、イベント記事でご紹介した、インド大使館公式YouTube「平和と調和のためのデジタル・コンサート・シリーズ」をご覧ください。協会HPのこちらのリンクからもご覧になれます。

https://www.japan-india.com/release/533abcf32d36dab47b0e65bca53a6ae174461405

年末年始の自宅巣ごもり生活にインド音楽鑑賞はいかがでしょうか。インド人と日本人のコラボ演奏もあり、編集子自身が感激しましたので再度ご紹介しました。

今年は3月より、協会活動が制限され会員交流会や他イベントが出来ず、会員の皆様にとっても、私たちにとっても残念な一年となりました。来年は素晴らしい一年になりますよう協会一同お祈りしております。（編集子）

入会随時受付中

日印協会は、1903年、長岡護美、大隈重信、渋沢栄一の３名が中心となって創設されました。以来、日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。

現在の協会の活動は、当協会の活動に賛同下さる会員の皆様からの会費によって支えられております。今後もより良い活動を続けるために、当協会の活動にご賛同いただける法人･個人のご入会を歓迎致します。

インドに関心をお持ちのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員･個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費:	個人	１口(8,000円)から	☆入会金	個人 2,000円
	学生	１口(4,000円)から		学生 1,000円
	一般法人会員	１口(100,000円)から		法人 5,000円
	特別法人会員	１口(150,000円)から		(一般法人、特別法人会員共に)

月刊インド 2020年12月号（2020年12月18日発行） 発行人 平林博 編集人 西本達生
発行所 公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: https://www.japan-india.com/

日本人向け到着時ビザ
Visa on Arrival for
Japanese Nationals

एअर इंडिया
AIR INDIA

A STAR ALLIANCE MEMBER

www.airindia.in

JAPAN AIRLINES

そこは「個々の望み」を、かなえる場所。
のびのびと自由な、くつろぎがある。

個室感を高めた空間、しかもストレスのない全席通路側アクセス。
JAL国際線ビジネスクラス〈JALスカイスイート〉。

足元まで広々とした、独立性の高いプライベート空間。
そして寝心地にこだわったフルフラットベッドが、快適な眠りをお約束します。
すべてにわたり、ファーストクラスをつくる気持ちで、開発にあたりました。

航空券のご予約・ご購入、ご搭乗手続きはこちらから www.jal.co.jp

oneworld member

JALは国際線ビジネスクラスに
オリジナル仕様の
「エアウィーヴS-LINE」を
採用しています。
airweave

JAL
明日の空へ、日本の翼

写真はイメージです。実際の機内とは仕様が異なる場合がございます。